

# わだいの特選

## カメラルポ

### 趣 中央公民館まつり 味を通じて交流を深める

12月6日、7日に『中央公民館まつり』が開催されました。館内には、各サークルの作品が展示され、訪れた人は「すごく素敵」と感嘆の声をあげながら、作品に見入っていました。館内では、作品の製作者から話を聞いたり、他のサークルの人たちと談笑したりする姿が見られ、趣味をとおして参加者は交流を深めていました。

また、茶道や小物作りなどの体験教室、舞台発表も行われ、訪れた人びとは、あちらこちらの部屋をのぞいては、様々なサークルの活動を体験して楽しんでいました。



### み 黒山鎌北湖駅伝大会 みんなの力でゴールを目指す

12月7日、『黒山鎌北湖駅伝大会』が開催されました。毛呂山総合公園をスタートした選手たちは、鎌北湖、黒山三滝を經由して越生町役場のゴールを目指しました。約24キロメートルのコースを65チーム（一般56チーム、学生9チーム）の選手たちが、たすきをつなぎ、熱戦を繰り広げました。結果は次のとおりです。

- 優勝 ランニングハイ（坂戸市・学生）
- 準優勝 飯能南高校A（飯能市・学生）
- 第三位 石川眼科A（越生町・一般）



### 山 企業の森除幕式 桜の名所を目指して

11月29日、滝ノ入字天ヶ平<sup>あまがだいら</sup>において、東洋エクスティア株式会社による企業の森活動が行われました。この山が、山桜の名所として多くの人に喜ばれるようにとの願いを込めて、植樹や除伐<sup>じよぼつ</sup>などを行いました。活動場所には、企業の森活動の理念を記した看板が立てられ、大勢の参加者が見守るなか、除幕式が行われました。また、子どもたちの体験事業として、きのこの原木づくりなども行われ、森に親しんだ1日を過ごしました。



### ゆ ゆず祭り ずの香りに誘われて



12月13日、滝ノ入集会所において、『ゆず祭り』が開催されました。朝9時の開店と同時に、多くの人々が詰め掛け、会場内は、熱気であふれていました。化粧箱に入れられた贈答用のゆずが飛びように売れ、梱包<sup>こんぱう</sup>が間に合わないほどでした。また、5個くらいに小分けされたゆずや地元で取れた野菜、地元で加工されたゆずジャム、ゆずみそ、こんにゃくなどの販売も行われました。このほか、みそおでんや豚汁の販売も行われ、買い物を終えた人たちは、おいしそうにほおばっていました。

## 始まっています 地域内交流!

子ども会とタッグを組んで!

### 第五団地 ふれあい・いきいきサロン「友和」

「トリック オア トリート! (お菓子をくれないといたずらするよ!)」小さな魔法使いたちが、声をそろえて玄関で呼びかけると、中から「ここに」しながら、お年寄りが出てきた。「はい、ごっご」とお菓子を手渡すと、子どもたちからは笑顔がこぼれる。

第五団地ふれあい・いきいきサロンが、今年、初めて取り組んだ事業のひとつが、このハロウィン仮装大会だ。「かわいい子たちがたずねてくれて、すごく心温まるイベントでした」と、評判は上々。子どもたちも、いつもと違ったお祭りに、「すごく楽しかった!!」と大喜びだった。



▲ 手作りの衣装を着た出発前の子どもたち

お菓子入れのバケツを飾るステン

シルは、第五団地の人に教わりながら、子どもたちが作ったもの。「子ども会から、こうした特技を持つ人を紹介してもらったんです」と区長の篠山さんがいった。「サロンでは、高齢者同士の交流事業はもちろんだ。世代を越えたふれあいの場も作っていただけらよと思っています。そのためにも、子ども会の協力が必要不可欠です。ハロウィンも子ども会のアイディアなんです」という。

子ども会会長の井上さんも「いろいろな年代の人と遊べれば、子どももいつもと違った経験ができます。子どもも楽しみにしています」と、サロンへのかかわりに積極的だ。

区長も役員も毎年変わり、サロンでは毎回、何をするかは手探り状態だ。しかし「役員だけでなく、たくさんの方が少しずつかかわっていただければいいのでは」と地域で力を合わせた活動を目指している。

「地域のふれあいは絶対に必要です。これからも大切にしていきたいと思えます」サロンでは、子どもから高齢者まで、年齢に関係なく、お互いに支えあい、ふれあいの輪が広がるよう願って活動している。

## 毛呂山歴史散歩

文化財シリーズ191

### 節分の唱え言 覚え書

まもなく2月3日の節分がやってきます。大人になってみれば何と違うことはない行事ですが、子どもたちにとっては父親や幼稚園の先生が鬼に扮する恐ろしい日のようです。

しかし、昔は大人にも恐れられる日でした。節分は2月4日の立春の前日、冬から春へ季節が分かれる日に邪気を祓う行事です。立春は旧暦の正月に近いことから、古くは正月同様、年の改まる日と考えたようです。この日は新旧が入替わるときに魔が差込む危険な日であるため、夜、聖なる豆を撒いて魔を祓うのです。

毛呂山の節分は豆の枝を燃料にして大豆をホウロクで炒り、次に鯛の頭を豆の枝に刺して焼きます。そのとき唱える言葉は、毛呂山のなかでもいくつかのパターンがあります。一つは、「ころころ」というフレーズが入るもので、「稲の虫もころころ、麦の虫もころころ、菜の虫もこ

ろころ、作物の虫もころころ」(長瀬・前久保・玉林寺ほか) というものです。もう一つは「べっぺっ」と鯛の頭に唾を吐きかけるもので、「田の虫もオカ(畑)の虫もみんな消えろ、べっぺっぺっ」(箕和田・毛呂本郷・岩井ほか) などと唾を吐きかけながら鯛の頭を焼いていきます。臭い鯛の頭を焼いたうえに、唾を吐きかけられたのでは鬼といえども逃げないきそうですが、その内容は、作物に害虫がつかないように祈りを込めて唱えられるもので、「ころころ」という言葉も「ころりころりと退散しろ」という意味だといわれます。

ほかに「くそまぬけ」などと悪態をついたり、「○○の虫くいつぶせ、○○の口チリチリ」(岩井)と唱える地域もあり、一様に害虫退治を願います。焼いた鯛の頭はヤツカガシと呼ばれ、鬼の目を突くとげのある枝の葉とともに玄関に飾られ、鬼の侵入を防ぐ役目をします。

農家の人びとにとっては、鬼も怖いですが、害虫も怖い相手だったのでしよう。



鯛を刺した柵の葉 (箕和田にて)